

② 渇水発生状況

渇水は四国と関東地方に多く見られる。平成6年の列島渇水では大規模な複数地域に渡って大規模な渇水が発生。

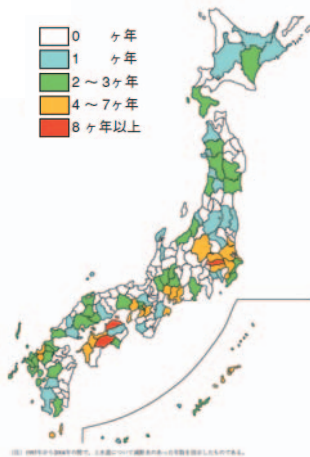


図. 過去の代表的な渇水
出典:財団法人 ダム技術センターHP

図. 最近20年の渇水発生状況

出典:国土交通省「平成17年度版 日本の水資源」

③ 水資源利用の現状

水使用量(取水量)は1997年をピークに減少傾向。生活用水は増加傾向、工業用水、農業用水は減少傾向。

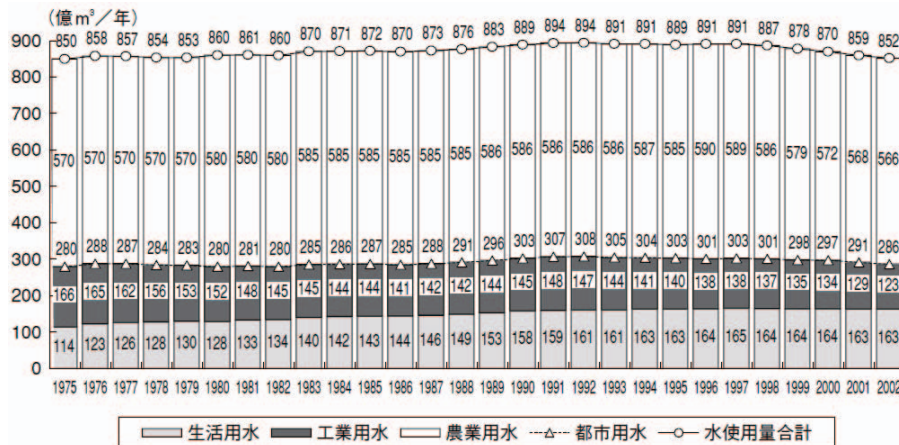


図. 水資源利用の現状(実績)

出典:国土交通省「平成17年度版 日本の水資源」

④ 仮想投入水量

仮想水(Virtual Water):生産物を生産する際に消費される間接的な水。仮想挿入量=640億m³/年 (参考:日本国内の年間灌漑用水使用量=590億m³/年)

仮想投入水量(穀物の場合) = $\frac{\text{1日の灌漑水量} \times \text{耕作面積} \times \text{栽培日数}}{\text{収量} \times \text{可食部}}$

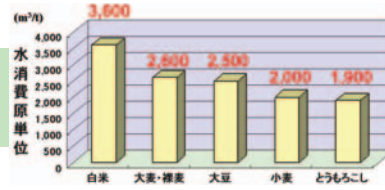


図. 主要穀物・豆類の水消費原単位

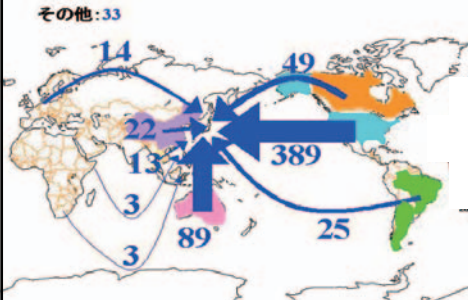


図. 日本の仮想水総輸入量(2000年時点)

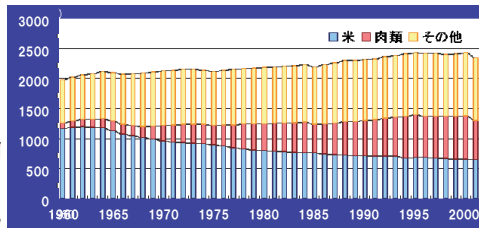


図. 日本人一人あたり仮想水消費量推移

出典:東京大学生産技術研究所 沖・鼎研究室 HP

⑤ 上下水道

給水人口は2003年現在で約97%。

下水処理人口は増加しつづけているものの、3分の2(66.7%:2003年度)に留まっている。社会資本整備重点計画(2003)において、2005年度に下水処理人口普及率を72%とすることを目標としている。

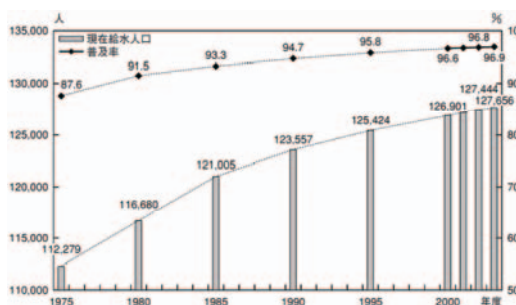


図. 給水人口推移(実績)

出典:国土交通省「平成17年度版 日本の水資源」

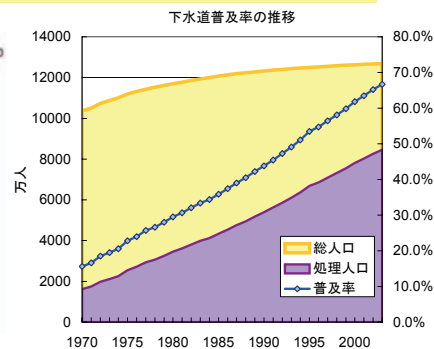


図. 下水処理人口推移(実績)

出典:日本下水道協会「平成15年度版下水道統計」より作成

5. 食糧

29

① 食料自給率(供給熱量ベース)

5. 食糧

日本の食糧自給率は40%で他の先進国と比較すると非常に低い値で推移している。食料・農業・農村基本計画では2015年までに食料自給率を45%とすることを目標としている。

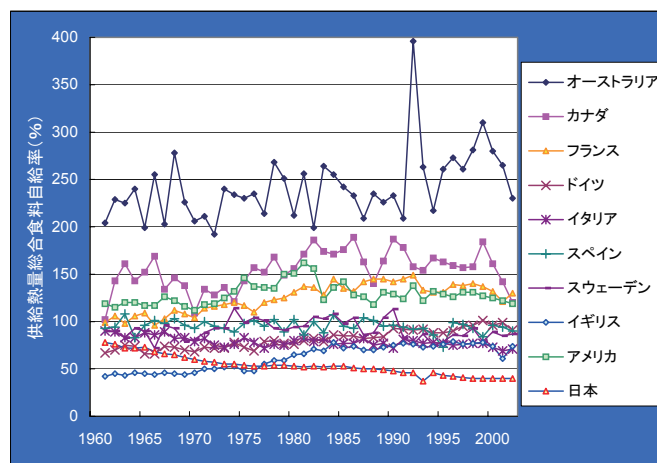


図. 供給熱量総合食料自給率

30

出典:農林水産省「平成15年度 食料自給率レポート」より作成

② 食料自給率(品目別)

小麦、豆類は高度成長期以前から自給率は低い。肉類、果実は1980年代半ばから自給率を下げ、現在では60%程度である。1990年頃から海藻類、魚介類、牛乳・乳製品、きのこ類が自給率を低下させている。野菜、いも類も除々に自給率を低下させている。

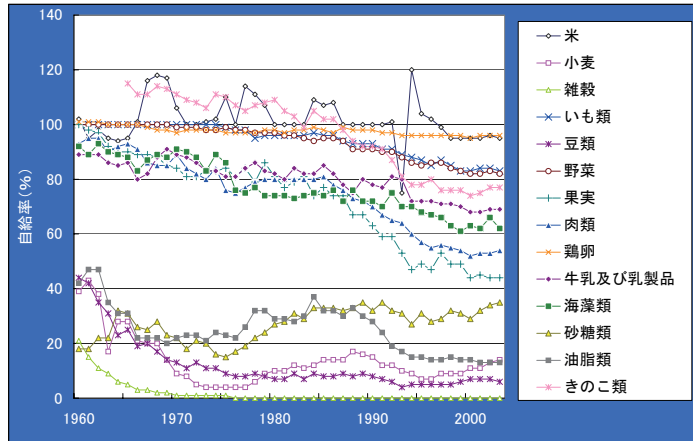


図. 品目別食料自給率の推移

出典:農林水産省「食料需給表」より作成

31

③ 日本の農林水産業人口

我が国の農業人口は減少し続けており、現在は260万人程度となっている。この値は1980年の半分、1965年の4分の1程度である。

農業就業人口に占める高齢者の割合の年々増加しており、2004年には65歳以上の農業就業者が農業就業者全体の57%を占めている。

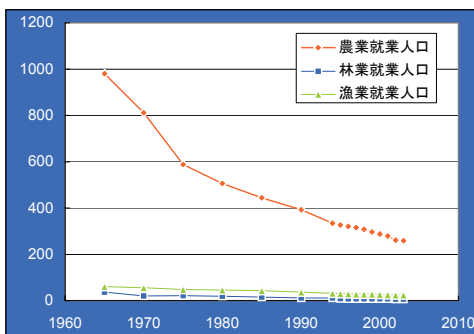


図. 農業・林業・漁業就業人口の推移

出典:平成16年度 食料・農業・農村白書より作成

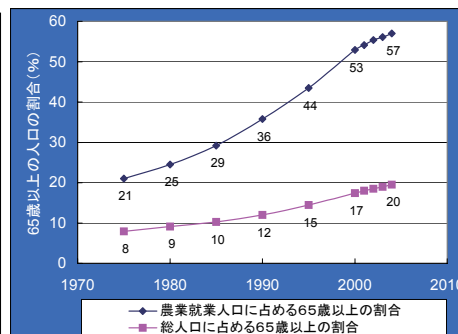


図. 65歳以上人口の比率

出典:農林水産省資料より作成

32